

もう師走、でも忙しい国会

早いもので、もう師走。街には年末恒例となったイルミネーションが輝き始めました。

十月十五日、臨時国会が召集され、この国会での常任委員会の委員長指名、特別委員会の設置が決定されました。

新たな特別委員会として「原子力問題特別委員会」が設置され、私はその委員長を仰せつかりました。原発に対する安倍内閣の基本方針は、原発を稼働させつつ、他の代替エネルギーの開発を進め、原発への依存度をできるだけ縮小してゆく、というものです。しかし、小泉元総理が原発ゼロとすべきとの発言をされ、注目されました。

その一方で、先の大島での豪雨被害、フィリピンのレイテ島での台風30号による大災害など、地球温暖化の影響が心配され、原子力エネルギーの重要性が改めて認識されるなど、原子力問題は大変難しい問題です。良識の府である参議院として、どのような方向性を打ち出せるか、委員長としての役割の重さを感じています。

この通常国会には、二つの薬事法関連改正法案が上程されました。一つは、医療機器の特性に応じた薬事規制の見直し、そして再生医療等製品の品質、有効性、安全性確保のための規定を新設するための法案、もう一つは、医薬品のインターネット販売に係る薬事法の改正です。特に、ネット販売の問題は、今年の一月に最高裁判所判決が出てから十か月、様々な議論がなされてきました。結局、スイッチ直後OTC薬と毒劇薬については対面販売を必須とする形で薬事法案が作成されました。この規制は最低限の規制であり、ネット解禁になる一般医薬品の新たなルールに関する省令がどのような形になるか、見守ってゆきたいと思えます。いずれにしても、法も人の作るもの、その時代、社会の動きを見て、絶対を守るべき規制と、改革すべき事項を的確に見極めてゆくのも政治家の役割でしょう。

参議院議員 藤井基之

薬学生に接してみても

もつゆき会幹事 岸田 修一
(北海道薬科大学客員教授)

最近のJR北海道の事故多発、補修放置は、函館から札幌近郊まで時々JRを利用する者として、運休や事故の場所が人ごとではなくなりました。どうしてこのような乗客無視の事態に至ったのか、経営者、労働者双方がどう話し合ってきたのかと思わざるをえません。

ところで、厚生労働省在職中に薬学6年制問題に関わってきた者として、第二の人生を薬学生と接したいと思ひ、3つの大学の客員教授として、時々講義に出向き3年が経ちました。その間に多くの期待が込められた6年制薬剤師の誕生です。講義では6年制の1年生、4年生、6年生あり、4年制の4年生、修士ありと多彩な学生に出会います。学生を眠らせない理解しやすい講義に苦勞の連続です。

学生の反応をみたり、話を聞いていると、4年制の学生のモチベーションが低く感じられます。また、4年十修士十αの薬剤師を目指す学生にも出会います。高校で進路を決める際の考え不足と言ってしまうには辛いものがあり、頑張れと励ますのが精一杯。

4年制の定員が少なくないにもかかわらず、4年制十修士の研究や製薬部門の技術者への道は限られています。MRがあるのではないかと思っていたら、製薬企業はMRに薬剤師を採用するという報道を目にしました。大学へ往復する中で色々な思いが頭を横切ります。

このようなミスマッチを防ぐには、高校生の進路選択の際にもっとわかりやすい情報が必要なのですが、どの情報が正しいのかの判断が難しいかもしれません。また、公的な機関が情報発信すれば、4年制大学の学生確保に支障をきたすような情報を提供するのもし難いでしょう。ミスマッチの学生を増やさないためには、4年制の就職状況や満足度をみて定員枠の早急な見直しが必要です。学生の将来が希望に満ちたものとなるよう、大学当局、教授が学生の将来を話し合い、対応してほしいです。しかし、実際には大学が自主的に4年制の講座

を縮小するような自分達の首を絞めるようなことは期待しにくく、きつかけづくりにには外部からの問題提起と働きかけが必要です。それには国会の場が最も相応しいのではないのでしょうか。となればこれらの問題を熟知し、行動力ある藤井先生への期待が膨らみます。

コラム

会員投稿

日本スキー発祥から 100 余年

44 (1911) 12 ()

mettez les skis!

10

2014 JR 103

9 2

5

1



スキー発祥記念館とレルヒ少佐

「藤井もとゆき君
と語る会」が
開催されました。

25 10 2
6 30 8 30

25 10 2

600



100-8962

2-1-1
1218



Fax

藤井基之浜町事務所

103-0007
東京都中央区日本橋浜町 2-35-7
島鶴ビル 601号



Fax



HP :
<http://www.fujii.tv/>